



防災職



令和5年度から 「防災職」の採用区分を新設

防災職とは、

“県民の命を守ること＝災害死ゼロ”
に対する高い使命感（志）を有し、
自然災害等への対応（災害予防、
災害応急対策等）を専門的に行う職種。

災害から県民の命を守り
未来の広島県のために
一緒に働きませんか

❖ 防災職の設置

- 近年、続発する大規模自然災害に対し的確に対応するため、自治体（県・市町）において、防災分野の知識や経験等を有する人材の確保・育成が急務となっている。
- しかしながら、防災分野のキャリアパスが確立しておらず、人事異動により数年で交代するなど、専門人材としての知識やスキルの蓄積が困難な体制となっている（専門人材としての知識・経験が不足している）。
- このため、広島県では、防災に対する高い志を有し、危機事態（自然災害等）への対応を専門的に行う「防災職」を新たに設け、県・市町共有の人材として採用し、県・市町が継続的に高いレベルで危機管理対応ができる状態を目指す。

災害から
県民の命を守り
未来の**広島県**のために
一緒に働きませんか

❖ 防災職の目指す人材像

危機事態に迅速・的確に対応できる人材

様々な危機管理事態に精通し、危機管理に関する知識・スキル・ノウハウを持ち、災害時に適切な判断と的確な組織運営ができる人材

- －人命を守ることに対する高い使命感（志）を有する
- －目の前で起きている危機（災害）に迅速・的確に対応する

関係機関とのネットワークを形成できる人材

リーダーシップと高いコミュニケーション能力を有し、多様な主体と連携・調整ができる人材

- －行政運営に必要とされる基本的な事務処理能力やマネジメント能力等に加え、防災全般に関する知識を有し、多様な主体と連携・調整できる（リスクマネジメント）
- －将来発生が予測されるリスク対策を考える

❖ 防災職のキャリアパス

様々なリソースを活用しながら、人材を育成

採用後は、県危機管理監に配置し、研修やOJT等により、基礎的な知識を習得。

その後、県・市町の危機管理部署や関連部署の人事ローテーションを基本としつつ、国、大学、民間企業等の外部専門機関への派遣など、計画的・継続的に災害時に適切な判断と的確な組織運営ができる人材を育成する。



主事
入庁1年～

先輩や上司から業務の内容や仕事の進め方を教わりながら、知識を習得し、様々な業務・災害対応を経験。

主任
入庁9年～

中堅の職員として、後輩職員の指導をしながら、職場の業務の中心を担います。

主査
入庁18年～

様々な経験の中で培ってきた専門性を活かし、施策の企画・立案の中枢となり、組織の重要な役割を果たします。

監督者

管理職
組織の責任者として、組織・業務の全体をマネジメントします。

一般
研修
過程

公務員としての必要な知識、勤務年数や役職に応じて必要とされる知識やスキルを体系的に習得
その他、企画立案力、説明力の向上、クレーム対応やタイムマネジメントなど本人の希望により受講する研修があります

研修

- ・ 県・市町防災人材協議会による研修
- ・ 内閣府（防災スペシャリスト研修）
- ・ 専門機関による研修（人と防災未来センター等）
- ・ 災害マネジメント支援員/総括支援員研修

OJT

- ・ 災害対策本部業務従事
- ・ 防災訓練・研修等の企画・運営、マニュアル作成、市町の防災体制強化支援等
- ・ 被災地派遣（避難所運営、罹災証明書交付、災对本部運営等、災害マネジメント・支援チーム総括）
- ・ 防災研修等の講師

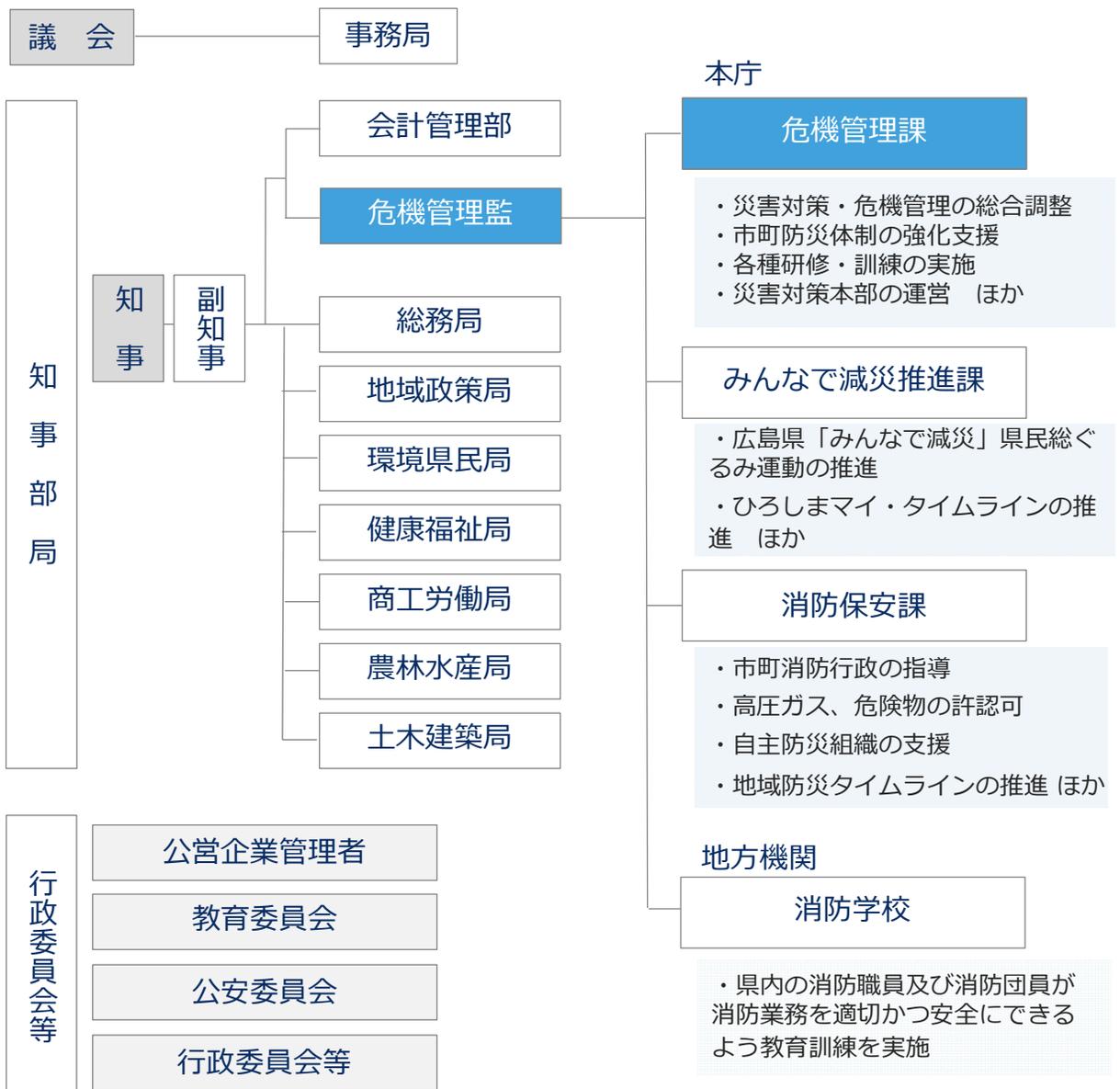
派遣

- ・ 国（内閣府等）、市町派遣
- ・ 防災関係機関派遣（大学、人と防災未来センター等調査研究機関）
- ・ 民間企業派遣（リスクマネジメント部門、民間気象予報会社等）

❖ 広島県の組織

○職員定数（令和7年4月1日現在） 総数：25,293人

○一般行政関係職員：4,611人・教育関係職員：14,901人・警察関係職員：5,781人



❖ 危機管理監で働く魅力

県民の生命を守る仕事で社会に貢献

世のため、人のため、
自分のためになる仕事

役に立っていることを実感できる

災害から県民の命や地域の安全を守る仕事

世の中や人の役にたっていることを実感で
きる

理想（災害死ゼロ）に向かって
人々の意識や社会を変えることが
できる仕事

職場に活気があり、仕事も暮らしも充実で きる

仕事にメリハリがある。
仕事も暮らしも充実できる。

（R6年度 年次休暇取得日数 平均17.8日/人）

（R6年度 時間外勤務 平均7.5時間/月・人（災
害対応時を除く））

若くて多様な職員が集い、
職場に活気がある。

（職員の4分の1が20歳代。県職員のほか市
町職員・市町消防吏員・自衛隊OBなど多様）

経験が活き、成長できる

様々な防災関係部署を経験しながら
成長できる。

危機管理監の目指す姿

広島県では、頻発・激甚化する風水害などから
県民の生命・財産を守るため、
自助・共助・公助を一体的に推進することにより、
「災害死ゼロ」の実現を目指しています。

- <自助> 県民の避難意識の醸成
- <共助> 自主防災組織の避難の呼びかけ体制構築
- <公助> 県・市町の災害対処能力の強化

危機管理監では、災害対策・危機管理の総合調整、市町防災体制の強化支援、各種研修・訓練の実施、災害対策本部の運営、地域防災計画の策定、地震被害想定の方定、避難行動の普及啓発、自主防災組織の活性化などの防災・減災対策の企画・立案・実行に関する業務を行っています。

❖ 危機管理課の業務

デジタル技術を活用した情報収集・発信

リアルタイムで被害現場の情報を収集し、関係機関との迅速な情報共有を図るため、SNS投稿解析サービスなどのデジタル技術を導入。

災害発生時に情報収集や指揮命令の拠点となるオペレーションルームには、大型ディスプレイを備え、様々な情報を収集・分析し、迅速な意思決定を行っています。

また、SNS等を活用した防災情報の発信にも取り組んでいます。

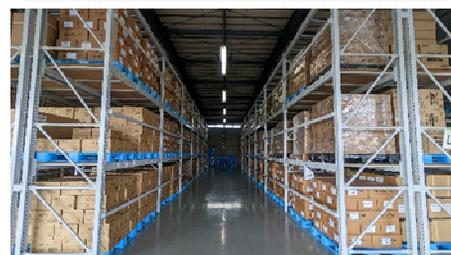
令和7年度から情報収集・発信機能をより強化した新「防災情報システム」の運用を開始しています。



災害対応の能力の向上・災害への備え

県職員の災害対応能力向上のため、職員自らが企画・運営する自然災害を想定した図上演習訓練等を実施しています。また、国・県・市町、その他の公共機関等との連携強化、地域防災力の向上を図るため、実働の総合防災訓練も実施しています。

県の防災拠点施設には物資や資材を備蓄するとともに、災害時応援協定を民間企業等と締結することで、災害時の物資供給・運送やライフラインの復旧などの支援が受けられるよう、防災関係機関の協力を得ながら、災害に備えています。



災害対応・災害対策本部の運営

災害発生時には、危機管理監の執務室に併設されている危機管理センターへ職員が参集し、市町や関係機関からの情報収集、関係機関との調整を行っています。

収集した情報を分析し、人命救助や被災者支援に必要な対応の決定、自衛隊などの関係機関への応援要請、被災市町へ必要な物資や人員の支援などの調整を行います。



❖ 危機管理課の業務

市町の災害対応の強化・支援

市町における災害発生時の初動対応マニュアルの作成や、避難情報の発令基準の見直し、各種訓練の実施に関する支援、市町長・副市町長・防災担当者を対象とした階層別セミナーの開催などを通じて、県内市町の防災対応力の強化に取り組んでいます。



防災ヘリコプターの運航管理

様々な災害や救助・救急活動などに迅速的確に対応するため、防災ヘリコプター「メイプル」を運航しています。県内消防本部（局）から派遣された航空隊員と航空会社により、365日出動可能な態勢で緊急時に備えています。



みんなで減災推進課

県民の避難意識の醸成

「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動条例」を制定し「知る・察知する・行動する・学ぶ・備える」の5つの行動目標を掲げ運動を展開しています。

また、「ひろしまマイ・タイムライン」（自らの防災行動計画）を活用した防災教育を推進するため、マイ・タイムライン推進員による小学校への出前講座を実施しています。



消防保安課

自主防災組織の活性化

自主防災組織による避難の呼びかけ体制を構築するため、自主防災組織役員・防災リーダー・市町職員等を対象としたセミナーを開催するとともに、地域住民の避難行動の推進を担う防災リーダーの養成や育成を実施する市町の支援を行っています。

地域の災害リスクを把握する災害図上訓練や避難のタイミングや経路を検討するワークショップなどを開催しています。



❖ 若手職員からのメッセージ

広島県職員を目指す皆さんへのアドバイス

「やりたいこと・気持ちを大切にすると」「報連相を積極的に行う」ことが大事だと思います。就職活動をする上で、仕事面でもプライベート面でもやりたいことができる環境というのはとても貴重だと思います。広島県職員は仕事とプライベートの両立が十分に可能なので、防災に少しでも興味のある方は、防災職を検討していただくと大変嬉しく思います。また、業務をする上で、様々な職員の方とやりとりすることが非常に多いので、常に報連相を意識して何かに取り組むことが大事だと感じています。

広島県を選んだ理由

2014年の広島市土砂災害をきっかけに、大学・大学院で気象学について学びました。近年頻発する豪雨災害や地震等の自然災害に対して、広島県が目標とする「災害死ゼロ」に強く共感し、学生時代に学んだ知識を生かして、地元広島県の防災に貢献したいと考え、広島県職員の防災職を志望しました。

現在担当している事業の紹介とやりがい

現在、危機対策グループに所属し、市町や消防職員の方と連携しながら、Jアラートをはじめとした緊急情報伝達に関する業務を行っています。災害時以外にも危機事案発生時にも緊急情報伝達システムはとても重要なので、定期的に行われる訓練を通して、スムーズな連携を意識して臨んでいます。災害対応時は残業や休日対応もありますが、平常時は基本的に定時に退庁できるので、危機管理監内全体でメリハリのある働き方ができていると感じています。（写真はGWにしまなみ海道にいったときのもので。）

おかし のぞみ
岡西 望

(R6年入庁 防災職)
所属 危機管理監 危機管理課



ある1日のスケジュール

- 8:30 出勤、メール確認
- 9:00 情報伝達訓練の連絡
- 12:00 昼食
- 13:00 メール確認、ToDo確認
- 13:30 配備当番表作成
- 15:00 委託先業者と打合せ
- 17:00 連絡員さんへの引き継ぎ
- 17:15 退庁
- 18:00 Youtube鑑賞

❖ 若手職員からのメッセージ

広島県職員を目指す皆さんへのアドバイス

防災職採用は、近年、頻発している大規模災害に対する確に対応するため新設されたものです。そのため、防災に関する研修や関係機関への派遣による自身のキャリアパスを形成することが可能です。

災害は、当たり前前の日常が一変してしまうため、常に事態に備えて対策を講じることが必要です。災害発生時には県民の生命や財産を守ることに直結する業務となります。

広島県職員は、地域に貢献するやりがいと責任感を感じることができ、自分自身の視野や見識を広げ、成長に繋げることができる魅力があります。

広島県を選んだ理由

私は、大学卒業後警視庁へ入庁し、大学教員を経て広島県庁に入庁しました。これまでの経験から災害発生時の初動対応の重要性や災害に備えることの大切さを痛感しました。

全国で初の防災職募集があり、これまでの経験を活かしつつ広島県の防災に携わることが出来ると考えました。また、県の防災に対する意識の高さに共感し、災害に強い広島県を実現したいと考え、志望しました。

現在担当している事業の紹介とやりがい

現在、県・市町防災体制強化担当というグループで業務を行っています。県と市町で連携しながら、広島県全体の災害対応能力の強化のため、市町の災害対応訓練の支援や、避難所の情報発信に関すること等の業務に携わっています。広島県全体の防災力を強化することで県の掲げる災害死ゼロを目指しています。県民の命を災害から守るために働く、大変重要な業務に携わっていると感じています。

災害対応時には時間外勤務をすることもあります。普段は定時に退庁し、プライベートの時間も大切にできる職場です。

ごうだ そうま
郷田 爽真

(R6年入庁 防災職)

所属 危機管理監 危機管理課



ある1日のスケジュール

- 8:30 出勤、メールの確認
- 9:00 グループミーティング
- 10:00 研修
- 12:00 昼食
- 13:00 市町へ出張
- 16:30 帰庁、協議録作成
- 17:15 退庁
- 18:30 家族との時間

❖ 若手職員からのメッセージ

広島県職員を目指す皆さんへのアドバイス

私は、「防災職」として広島県庁に採用されました。「防災職」は近年、続発する自然災害に対する確かつ専門的に高いレベルで対応するために新設されたものです。業務内容は、有事の際の対応だけでなく、「自助、共助、公助」に関わる業務があり、どれも災害死ゼロを目指す上でとても大切な業務です。様々な角度から防災に関わることができ、とても魅力的な仕事です。防災に関して興味があり熱い気持ちがある人をお待ちしています。

広島県を選んだ理由

私は、学生時代広島県で過ごし、平和都市としての知名度だけでなく、海、山、川など自然も豊かである広島県をとっても魅力的な県だと感じていました。就職を機に広島県を離れており、西日本豪雨で被害に合う姿を見て、当時は、なにか携わりたいが携われずモヤモヤしたことを覚えています。昨年度、広島県で「防災職」の採用があることを知り、広島県の防災に携わり広島県民のために働きたいという気持ちから「防災職」を志望しました。

現在担当している事業の紹介とやりがい

私は、消防保安課地域防災グループに配属されており、市町の自主防災組織と関わりながら地域の防災力の向上を目指しています。「自助、共助、公助」は全て大切であります。有事の際には特に共助の部分である「地域の力」が大切だと私は思っているため、担当している業務にとってもやりがいを感じています。

現在、「地域防災タイムライン」を活用した訓練を推進しており、市町の自主防災組織と連携しながら取り組んでいます。県民の防災への当事者意識を高めることで災害死ゼロを目指していけたらと思っています。

まつさか あつし
松坂 篤史

(R6年入庁 防災職)
所属 危機管理監 消防保安課
(現所属 危機管理監 危機管理課)



ある1日のスケジュール

- 8:30 出勤、メールの確認
- 9:00 グループミーティング
- 10:00 研修
- 12:00 昼食
- 13:00 市町へ出張
- 16:30 帰庁、協議録作成
- 17:15 退庁
- 18:00 家族との時間

❖ 勤務条件等

※令和8年4月1日現在

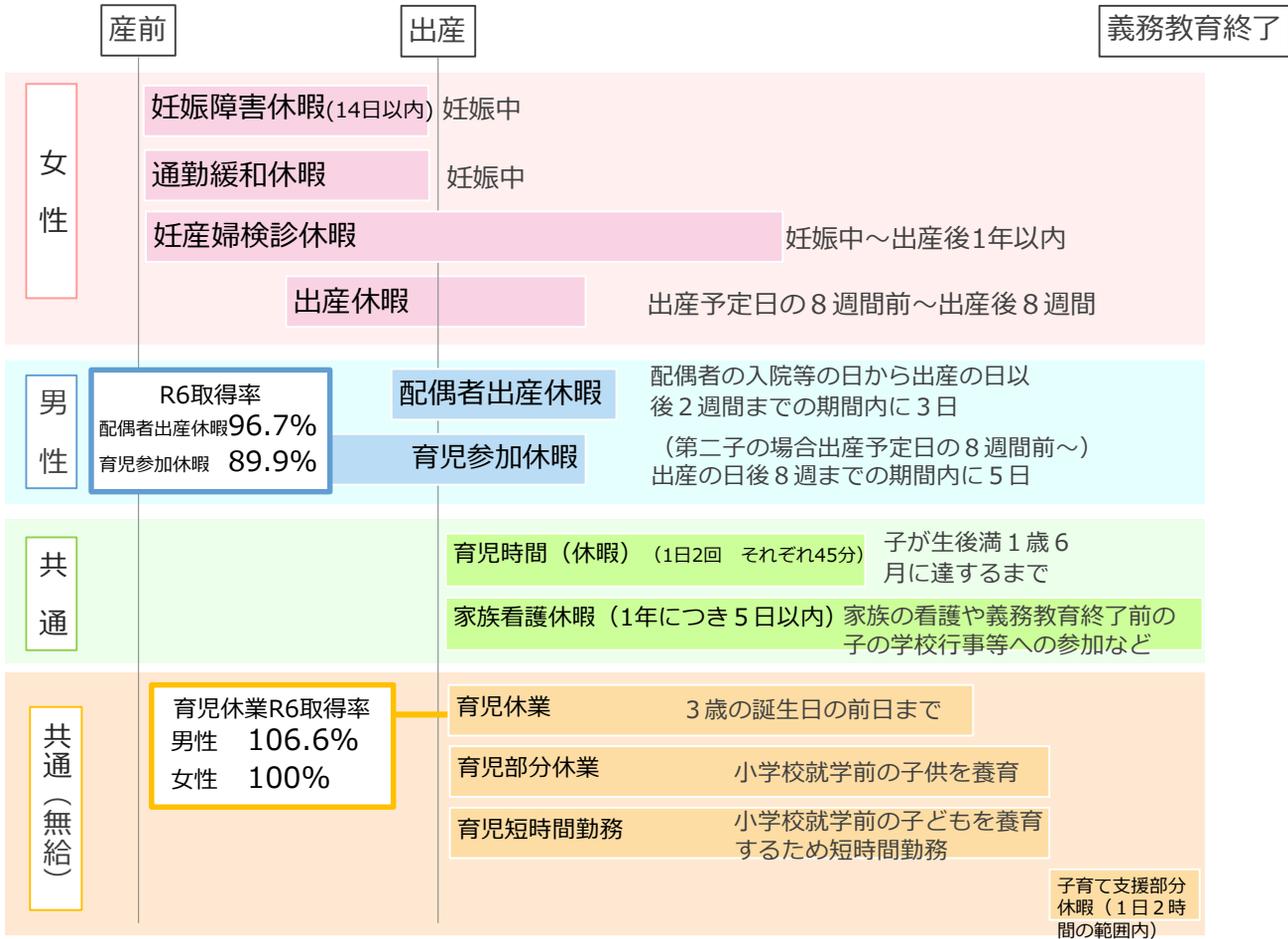
初任給	約258,700円（4年制大学卒） ※広島市内勤務の場合。 ※学歴や職歴に応じて増額されることがあります。
期末・勤勉手当	1年間に給与月額などの4.65月分
通勤手当	1か月当たり 150,000円までは全額
扶養手当	(1) 配偶者 3,000円、 (2) 子 11,500円 (3) (1) 及び (2) 以外の扶養親族 6,500円
住居手当	賃料に応じて28,000円上限 手当の計算 (家賃 - 25,000) × 1/2 + 11,000 ほか、時間外勤務手当、特殊勤務手当等などが基準に従って支給されます。
勤務時間	基本的な勤務時間 8:30～17:15（7時間45分/日） 休憩 12:00～13:00
週休日	土曜日・日曜日
休日	国民の祝日に関する法律に規定する休日 12月29日から翌年の1月3日までの日
年次有給休暇	毎年1月1日からその年の12月31日までの間に おいて20日以内で付与 残余日数がある場合は、20日を超えない範囲内の 残日数を翌年へ繰り越すことができる
特別休暇	病気休暇、夏季休暇、結婚休暇など

❖ 広島県庁の働き方改革

～仕事も暮らしも欲張りなライフスタイルの実現にむけて～

仕事と子育ての両立支援

子育て職員を支援する体制・風土があり、育児関連の休暇の積極的な取得を進めています。



働き方改革の推進

テレワークの推進のためにLTE通信機能のあるノートPCを全職員に配布するなど、希望するすべての職員が気軽に利用しやすい雰囲気づくりを進めています。

- ・モバイルパソコンを1人1台整備
- ・WEB会議システムも拡充
- ・職員同士で気軽に利用できるチャット機能の整備
- ・テレワークの推進

❖ 防災職の採用

受験資格（大学卒業程度試験）

- ・採用時 22～39歳
 - ※ 令和8年度から受験可能な上限年齢を採用時39歳まで引き上げ
- ・学部・学歴に関係なく受験可能

試験内容（大学卒業程度試験）

区分	試験項目	内容
第1次試験	SPI3基礎能力検査	言語的理解力や数量的処理能力、論理的思考力
	アピールシート試験	これまでの職歴や様々な活動を通じて培った能力や成果、働く意欲等に関する自己アピール
	専門記述試験	専門分野に応じた思考力等
第2次試験	面接試験	使命感、コミュニケーション、達成力等
第3次試験	面接試験	使命感、コミュニケーション、達成力等 ※面接の冒頭で、事前に示す課題に基づいてプレゼンテーション

令和8年度試験日程（大学卒業程度試験）

試験	日程
受付期間	3月1日～5月19日
第1次試験	6月21日
合格発表	7月3日
第2次試験	7月15日～7月21日
合格発表	7月24日
第3次試験	8月4日～8月7日
最終合格発表	8月21日

◎採用予定人員等の詳細は、受験案内で確認してください。

受験・仕事等について

Q 防災職の受験に必要な資格はありますか？

A 受験に必要な資格はありません。どの学部・学科卒業の方でも受験が可能です。

出身校、出身学部、出身県及び性別などによる有利・不利はありません。受験要件が満たされていればすべての人に平等です。

Q 大学卒業程度試験は大学卒業資格が必要ですか？

A 大学卒業程度試験の「大学卒業程度」とは、大学卒業程度の学力を必要とする試験という意味で、受験要件（年齢など）を満たしている人であれば、学歴・職歴・性別に関係なく受験できます。

Q 募集職種や採用予定人員はいつごろわかりますか？

A 募集職種や採用予定人員は、各試験の受験案内配布開始日に受験案内に掲載して発表します。なお、受験案内は広島県人事委員会ホームページでもご覧いただけます。

Q 受験の際はどんな服装をしたらいいですか？

A 服装の指定はしていません。ただ、第1次試験には普段の服装で、面接試験にはスーツで来られる人が多いようです。

Q 防災職は技術職員ですか？

A 防災や危機管理に関する一般事務を専門的に行う事務職員です。

Q 主な仕事は何ですか？

A 災害時は、災害対応に必要な情報収集や気象の分析、刻々と変わる災害の状況に応じた避難や救助などの対策を講じ、また、そのための関係機関との調整を行います。

災害対応を円滑に行うため、平素は、災害対応能力向上のための訓練や研修の企画、計画の見直しなどを行います。また、災害時には、被災市町において、災害対応や避難所運営などの支援も行います。

Q 自由な時間が少ないですか？

A 危機管理の仕事と聞くと、災害対応ばかりで残業が多く、気が休まらない職場だと思われるかもしれませんが、実際は「仕事も暮らしも充実できる、働きやすい職場」です。

普段は業務に支障がなければ17時15分の定時で帰宅しメリハリのきいた仕事～やるときはやる・やらないときはやらないを徹底

年次有給休暇の取得

R6年度危機管理監 平均約17.8日/人

長時間労働の削減

普段は残業も多くありません

R6年度危機管理監 平均7.5時間/月・人
(災害対応除く)

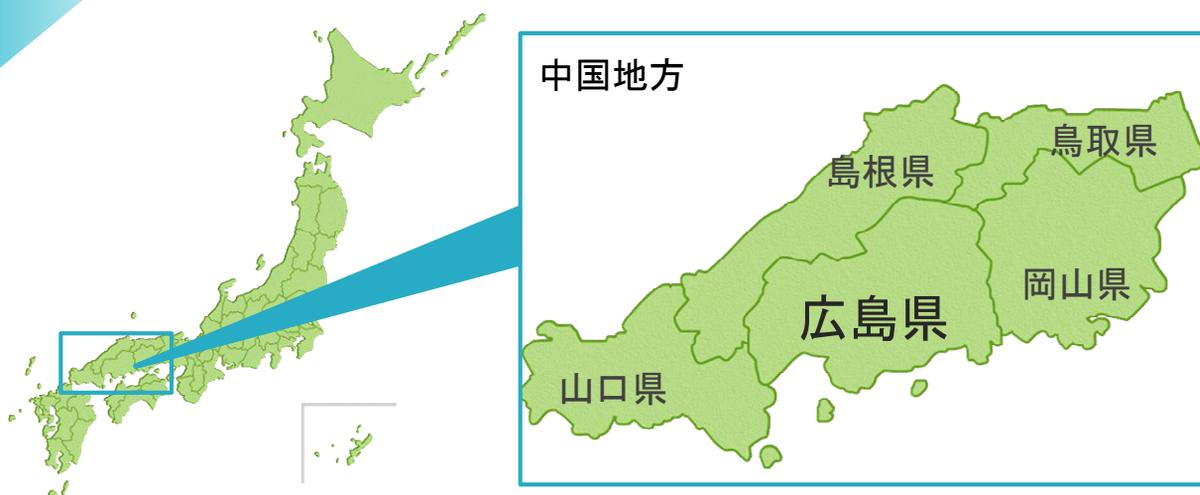
Q 災害対応の知識がないと仕事についていけない？

A 事前に習得しておかないといけない知識や資格はありません。行政職員として必要な知識や災害対応の知識は業務を経験していく中で身につけていくこととなります。

Q 異動のサイクルはどのくらいですか？

A 何年で異動すると決まっているものではありませんが、約3年～5年のサイクルで異動することが多いです。

広島県の紹介



中国地方に位置し、県庁所在地は広島市。

人口279万人(出典「令和2年国勢調査結果」(総務省統計局)・全国12位)で、中四国で最大です。

瀬戸内海や中国山地等豊かな自然や景勝地が多くあり、都市と自然が程よく融合しており、1つの県で海水浴からスキーまで楽しめる等、個性豊かで多様な地域があり、多彩なライフスタイルを実現できます。

広島は、都市と自然が融合した美しい景観を織りなしており、厳島神社や原爆ドームといった2つの世界遺産をはじめ、たくさんの観光地があります。また、お好み焼きや牡蠣などの美味しいご当地グルメも多く、野球にサッカーなどのスポーツも盛んです。

「元気」「美味しい」「暮らしやすい」

海があり山がある豊かで穏やかな風土、平和への想いと復興を成し遂げたエネルギーが、明日へ向かうひろしまの原動力です。

どんなときでもたくましく、元気あふれるひろしまは、日々の活力となる美味しい食の宝庫でもあり、世界に誇れるほど暮らしやすいところです。

元気

美味しい

暮らしやすい

❖ ひろしまは、元気あふれるところです。

～様々な分野でイノベーションが生まれ、スポーツを愛する情熱があふれている～

ひろしまは、県民性として受け継がれるチャレンジ精神や、戦後復興を成し遂げたエネルギーを原動力に、各分野でイノベーションを創出しています。また、野球、サッカー、バスケットボールなど数多くのトップスポーツクラブの活動拠点があり、スポーツを愛し、応援する情熱も、ひろしまの元気の源になっています。

世界が驚くほどの復興を遂げた 先人たちの努力

草木も生えないと言われた焦土に、先人たちは緑あふれる大都市を創り上げました。原爆投下の3日後に走りはじめた広島市の路面電車。大空襲の惨禍からよみがえった福山市のバラなど、復興のシンボルが今も受け継がれています。



オンリーワン・ナンバーワン企業を生んだ チャレンジ精神

明治時代から昭和にかけて、新たなことにチャレンジする海外移住者が最も多かった広島県。その県民性が原動力となって、独創的なビジネスモデルを生み出した多種多様なオンリーワン企業やナンバーワン企業が数多くあります。



プロ・企業スポーツクラブの数は日本トップクラス

戦後復興の象徴となった広島東洋カープのファンをはじめ、スポーツを楽しむことを誇りに思う人がたくさんいます。

スポーツ王国の広島県には、野球、サッカー、バスケットボール、バレーボールなど、数多くのプロ・企業スポーツクラブの活動拠点があります。トップアスリートのプレーを間近で見られる環境は、子どもたちの夢も広げてくれます。



世界中を勇気づける平和への祈りとアクション

広島平和記念資料館や大和ミュージアム、海上自衛隊第1術科学校（旧海軍兵学校）など、戦争の記憶と平和の尊さを伝える施設が各地にあり、世界中の人々が訪れています。



❖ ひろしまは、美味しさの宝庫です。

～豊かな自然・地形・気候に育まれた、四季折々の美味しさが味わえる～

ひろしまは、瀬戸内海や中国山地の豊かな自然に育まれた、良質な食材の宝庫です。海の幸にも山の幸にも恵まれ、一年を通して美味しいものが味わえます。日本一の生産量を誇る牡蠣やレモン。ソウルフードのお好み焼き。中国産地で育つ上質な広島牛。歴史ある酒処も、ひろしまの食文化をつくりあげています。

日本三大名醸地・西条を擁する酒処

広島県は「吟醸酒」発祥の地。明治時代に軟水醸造法が開発され、日本三大名醸地の西条をはじめ、県内各地の酒蔵が多様で美味しい酒を造っています。

瀬戸内の四季を感じる多彩な旬の白身魚

瀬戸内の中でも多様で恵まれた環境だからこそ、四季折々に多彩な白身の魚が水揚げされます。繊細な旬の白身と、旨味のある広島の酒との相性は抜群です。

牛肉本来の美味しさを教えてくれる比婆牛

広島県の和牛「比婆牛」は、筋肉質で赤身が多く、脂がすっきりしているのが特徴。日本酒や白ワインとの相性も良く、冷製料理に真価を発揮します。

豊かな自然が育むかきの生産量は日本一

生産量は日本一を誇り、身がぷりっとして濃厚な味わいがあるのが広島かきの特徴といわれています。一年中食べられる「かき小町」も広島県で生まれました。

国産レモンの生産量日本一

瀬戸内の温暖な気候で育つレモン。広島県は国産レモンの生産量の6割以上を占めています。皮ごと食べられる、瀬戸内ひろしまレモンのさわやかな風味を生かした料理や、スイーツなどの人気商品もたくさん誕生しています。



❖ ひろしまは、暮らしやすさをつくります。

～都市と自然が近接する恵まれた環境で、質の高い暮らしが楽しめる～

ひろしまは、多彩な都市機能と豊かな自然が近接する恵まれた環境のなか、四季折々のアクティビティを楽しみながら、職・住・遊を同時に充実させることができます。暮らしやすさは、ひろしまが誇れる大きな魅力です。また、県内に2つの世界遺産と5つの日本遺産、無形文化遺産、世界のサイクリストが憧れる聖地もあり、新たな発見や出会いが待っています。

都市と自然が近接した質の高い暮らし

中四国地方の発展を牽引する便利で快適な都市群が、穏やかな瀬戸内海となだらかな中国山地に近接。海水浴もスキーも楽しめて、レモンもリンゴも味わえる多様な地域特性があり、自分に合った暮らしを叶えることができます。

2つの世界遺産をはじめ、多彩な見どころと体験

海の上に行む「厳島神社」と平和を訴える「原爆ドーム」。2つの世界遺産をはじめ、5つの日本遺産、特別名勝の三段峡・帝釈峡など見どころがいっぱい。カヌーやシーカヤック、トレッキングやスキーなどの多彩なアクティビティも体験できます。

魅力ある伝統芸能と伝統工芸の宝庫

ユネスコの無形文化遺産に登録された「壬生の花田植」。全国有数の神楽どころとして知られる「ひろしま神楽」。化粧筆が世界的なブランドになった「熊野筆」など。伝統の技と心を受け継いだ芸能や工芸品が、新たな魅力で全国的に注目されています。

世界屈指の海上のサイクリングロード

米CNNの世界7大サイクリングロードにも選ばれた「瀬戸内しまなみ海道」。海の上を走りぬける爽快なコースは、世界中のサイクリストたちの憧れです。日本で唯一、高速道路を規制して海を渡るサイクリング大会が開催されています。



■問合せ先

広島県危機管理監 危機管理課

〒730-8511 広島市中区基町10-52（県庁北館4階）

電話 (082) 513-2785

Eメール kikikanri@pref.hiroshima.lg.jp

広島県庁

〒730-8511 広島県広島市中区基町10-52

電話：082-228-2111（代表）

開庁時間

月曜日～金曜日
8時30分～17時15分

※土日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）は開庁していません。

